



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：失業対策

(25日付アラブ・ニュース紙ほか)

25日付アラブ・ニュース紙およびサウジ・ガジェット紙は、失業対策に関するファキーフ労働大臣の発言に関し報じた。概要は以下の通り。

1. ジッダで開催された第4回人材育成フォーラムにおいて、ファキーフ労働大臣は、現在44万8,000人のサウジアラビア人失業者(男女合計)がいることを明らかにした。なお、サウジアラビア国内で働く外国人労働者の数は840万人である。
2. サウジアラビアの失業対策には、民間セクターでのサウジアラビア人雇用を増やすことが重要であるが、現状では、民間セクターにおける従業員のサウジアラビア人比率は2～10%である。なお、民間セクターで働く外国人労働者の数は690万人と言われている。
3. 労働省は、サウジアラビア人雇用促進政策(Nitagatプログラム)をさらに発展させる計画である。その内容は、本政策に従わず違法行為を続ける企業への罰則強化、外国人労働者の海外送金制限、外国人労働者雇用のコスト増などである。
4. サウジアラビア人求職者の86%が女性であり、そのうち29%が大学卒業者である。他方、男性求職者のうち大学卒業者は5%未満であり、高等教育を受けたにもかかわらず職を得ることができない状況は、女性にとってより深刻である。ほとんどのサウジアラビア人女性は教育分野で働くことを希望しているが、その他の分野でサウジアラビア人女性を雇用する体制が整っていないことも問題である。労働省は、サウジアラビア人女性の雇用を他の分野でも促進するため、様々な対策を行う予定である。